

ソーシャルビジネス・ネットワーク



2014 年 10 月～2015 年 9 月 30 日

年次レポート

(平成26年度事業活動、収支報告書)

SBN

2014-2015
ANNUAL REPORT
Social Business Network (SBN)

代表理事からのご挨拶

いつも「ソーシャルビジネス・ネットワーク」にご支援、ご協力を賜り、ありがとうございます。ソーシャルビジネス・ネットワークは、2010年12月17日の設立総会から、まもなく5年を迎えようとしています。ここ数年、震災による被災地復興という観点からの活動に力点を置いてまいりましたが、来年からはいよいよ、これまでの活動の経験を生かしつつソーシャルビジネスの動きを日本各地に創り出して行きたいと考えています。

わが国では貧困と格差が拡大し続けています。厚労省が昨年7月に発表した2012年のわが国の相対的貧困率は、国民全体の貧困率が16.1%、子供の貧困率が16.3%となっており過去最悪となっています。また、ひとり親家庭の貧困率は54.6%で、2世帯に1世帯が貧困状態に陥っています。かつての1億総中流時代は終わりを告げたと言わなければなりません。一方、農林水産省の統計によると、日本に輸入される食品5500万トンのうち、1800万トンは廃棄されているといわれています。世界の食糧援助総量470万トンを大幅に上回る量が捨てられているのです。こうしたことにより、世界では現在、1日に約5万人が飢餓で亡くなっています。うち大半が子供たちだといえます。なんということでしょう。日本人の私たちの食生活のあり方が、世界の飢餓を拡大しているのです。

宮沢賢治は、芸術論「農民芸術概論綱要」で「世界ぜんたいが幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」と書いています。賢治が生きていたら、この現実をなんと言うでしょう。少なくとも、こうした格差や貧困を放置していて、自分たちだけの幸せはないと言うに違いありません。ソーシャルビジネスの力で、格差や貧困をなくしたい。企業活動を通じて大きく社会貢献ができるはずです。会社は本来、社会貢献するためにあるのです。会社のことを英語でカンパニーといいます。パンを意味するラテン語 panis (パーニス) に、「共に」を意味する接頭辞 com をつけた合成語。食料を分けあって食べる、ひいては食いぶちをともにするという意味だそうです。ここにソーシャルビジネスの精神が込められていると思います。会社は一部の株主や経営者だけのものではないのです。

日本に、世界のモデルとなるようなソーシャルビジネスを根付かせ育成することが夢です。多くの若いソーシャルビジネスの起業家たちを育てたい。その力で「世界ぜんたいが幸福に」なるよう頑張りたいと思います。皆さまの一層のご支援、ご協力をお願いします。また、多くの企業、団体、個人の皆さまが当団体に参加されますよう心からお願いします。



一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
代表理事 藤田和芳

目次

I.	事業報告	3
1	今期戦略方針の振り返り	3
1.1	事業に関する方針	3
1.2	組織運営に関する方針	4
2	個別事業報告	4
2.1	SB まちづくりプロジェクト	4
2.2	SB ネットワーク塾	7
2.3	ソーシャルビジネス・ギャザリング	8
2.4	ソーシャルビジネス・アワード	12
2.5	SB コミュニティ	13
2.6	SB プラットフォーム	14
3	組織運営報告	15
3.1	入会促進	15
3.2	地域連携	16
3.3	広報・PR	16
3.4	定例会議	17

I. 事業報告

1 今期戦略方針の振り返り

理事会及び社員総会での承認のもと、以下の計画に基づき、事業推進、組織運営を図ってきました。

1.1 事業に関する方針

昨年度設定していた4つの事業ドメイン(「SB タウン・インキュベーション」、「生き方・働き方を変える大学」、「課題先進国会議」、「課題先進国ギャザリング」)を1つの事業ドメイン「ソーシャルビジネス・タウン創生事業」に集約します。

この間、震災復興により蓄積されたモデル形成の知見とノウハウを、全国の地方創生に向けた水平展開を図るべく、汎用的に活かしていきます。

27 年度、28 年度でソーシャルビジネス・タウン創生のための候補地を開拓し、29 年度から本格的に地域づくりを進め、ソーシャルビジネスによる地方創生を図ります。

併行して、今後の地方創生において望まれるソーシャルビジネス・タウンの考え方・あり方について、引き続き調査・研究・実証実験を行い、然るべき定義と共有を図れるようにします。

(事業スキーム)

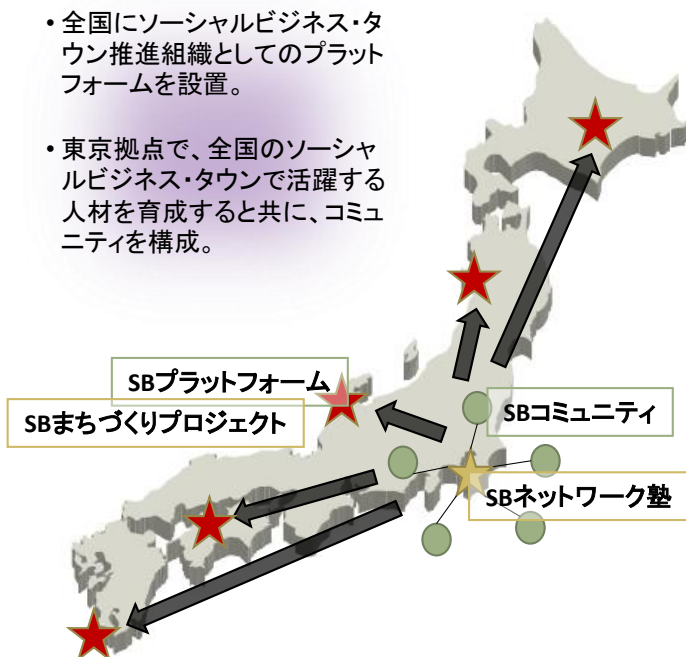
ソーシャルビジネス・タウン創生のための“SB まちづくりプロジェクト”と、ソーシャルビジネス・タウン創生のための“SB プラットフォーム(推進組織)”を展開していきます。

全国にソーシャルビジネス・タウン推進体制として、“SB コミュニティ”、“SB プラットフォーム”を設置します。

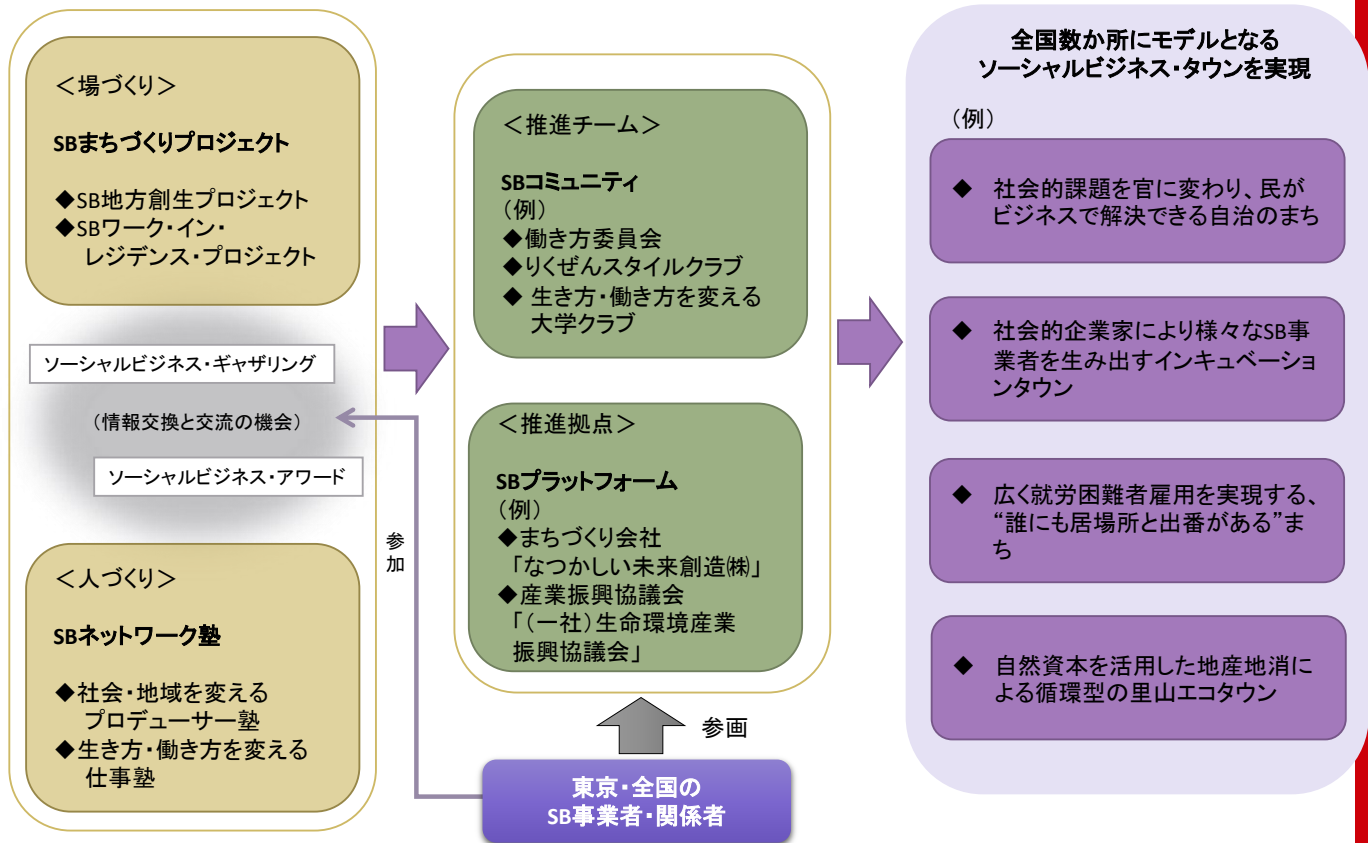
また東京を拠点に、地域のソーシャルビジネス・タウンで活躍する人材を育成し、流動を図る“SB ネットワーク塾”とソーシャルビジネス・タウンを共に推進するサークル活動“SB コミュニティ(推進チーム)”を展開します。

ソーシャルビジネス・タウン創生事業

- 全国にソーシャルビジネス・タウン推進組織としてのプラットフォームを設置。
- 東京拠点で、全国のソーシャルビジネス・タウンで活躍する人材を育成すると共に、コミュニティを構成。



“場づくり”と“人づくり”により、ソーシャルビジネス・タウンを創生する。



1.2 組織運営に関する方針

事業開発の入口は地方創生予算を、出口は雇用助成金をシーズマネーとして活用します。

中期的な考え方として、SBN としての事業収益構造について、7 割補助金等行政予算、3 割自主事業(会費含む)を目指します。

2 個別事業報告

2.1 SB まちづくりプロジェクト

ソーシャルビジネス・タウン創生のための事業創造。社会的行動動機や報酬に基づいたライフ & ワークスタイルが活かされる新社会システムを設計することを目的として展開します。

SBN が支援している一般社団法人 生命環境産業振興協議会への協力により、渡邊常任顧問の株式会社アイエスエフネットと協働する形で、復興庁「平成 26 年度『新しい東北』先導モデル事業」予算を獲得し、2014 年 8 月より 2015 年 3 月まで、誰もが働くことのできるまち“ユニバー



サル・ワーカーズ・バレー（仮称）”モデルを計画すべく、活動を行ってきました。

08「今泉ユニバーサル・ワーカーズ・バレー」創造による地域再生

(岩手県陸前高田市) ～一般社団法人生命環境産業振興協議会、一般社団法人陸前高田・今泉地区明日へのまちづくり

**H26年先導モデル事業
報告概要**

- 取組全体の目的・概要:** 東北・日本各地のモデルとするために、気仙地域の地域資源、森林(気仙杉)、すまい(気仙大工等)、食・農を活かし、コミュニティの強さ(信頼資本)や生活文化を資本に手仕事(匠の技)産業の創造と集積をめざし、就労困難者が働き暮らせる新しいコミュニティモデルを構築する。
- 取組の先進性:** 多くの自治体と協働し就労困難者の雇用創造を実現している、株式会社アイエスエフネット(東京)の参画を得、B型+A型+就労移行支援～一般就労をはかる。

【1】取組①「ユニバーサル・ワーカーズ・バレー」研究会の設置

主な実施取組の内容

(1) 全体研究会(推進会議)開催

①第1回開催

陸前高田・今泉 けせん匠の学校(仮称) 構想推進会議

2014(平成26)年9月26日(金) 19:00～21:30

場所: 箱根山テラス(陸前高田市箱根山)、

出席者17名

概要: 県、市、域内B型事業者、特別支援学校、

市内事業者、アイエスエフネット、地域

組織等の参加を得て開催

気仙地域の障がい者雇用と地域産業の現状を共有

以下3点を確認

- ①スケジュール含め案通りに推進、
- ②「森林」「すまい」分野での検討と実証実験の推進、
- ③「食・農」分野の検討も前倒し努力する



②第2回開催

2015(平成27)年3月24日(火) 15:30～17:30

場所: 一般社団法人生命環境産業振興協議会 事務所

概要: 今年度成果の共有、来年度以降の方向性について共有

(2) 専門家、地域事業者等へのヒアリング

のべ18名ヒアリング

- ・全国の障がい者・就労困難者の就労最新動向
- ・気仙地域の障がい福祉の状況(特に震災後)
- ・気仙地域の障がい者雇用の現状(A型～一般)
- ・気仙地域の企業・事業所の雇用状況の最新動向
- ・「気仙大工」「気仙左官」の現状
- ・気仙地域での森林管理の現状
- ・気仙地域での森林資源活用の最新状況
- ・自伐方式による森林管理
- ・「農」「食」野での障がい者雇用の現状
- ・森林・すまい関連分野からの就労可能性
- ・食と農関連分野からの就労可能性
- ・新事業所展開に向けた体制の可能性
- ・市の福祉現行計画と将来計画との整合性
- ・市の復興まちづくり計画(都市計画)との整合性、等

(3) 部会研究会(作業部会)の開催

■第1回 2014年12月17日(水) 13名出席 7:00～18:00

宮城県内における食・農分野取組情報・知見を

得て、展開可能性を検討



主な実施取組の内容(続き)

【1】取組①「ユニバーサル・ワーカーズ・バレー」研究会の設置(続き)

■第2回 2014年12月18日(木) 12名出席 8:45～18:00
岩手・宮城県内における森林、すまい、食分野での取組

情報・知見を得て、展開可能性を検討

■第3回 2014年12月25日(木) 9名出席 9:00～15:00

森林・自伐方式の情報と知見。

1,2回で得た知見、検討を踏まえて、実証実験計画の検討

■第4回 2015年2月8日(日) 9名出席 15:00～17:30

実証実験の成果と課題共有

今後の方向性に関する検討

■臨時(第5回) 2015年2月26日(木) 3名出席 13:00～

テレワーク業務の切り出し実施に関する具体的検討



(4) 参考事例視察

- ①アイエスエフネットグループ事業所視察 2014年12月8日(月)～9日(火)
就労支援(マナー、スキルアップ等)、B型・移行・A型一体運営、自治体等関係者との体制構築、などのしくみとノウハウを得る。
(青山本社地区、中野事業所、沼津事業所)
- ②福祉・食のまちづくり事例視察 2015年3月2日(月)～4日(水)
市民協働の福祉のまちづくり: あいとうふくしモール(滋賀県東近江市)
自然環境・文化・食によるまちづくり: たねや(滋賀県近江八幡市)
伝統的町並み・食・商店によるまちづくり: おかげ横丁(三重県伊勢市)



【2】取組②「今泉ユニバーサル・ワーカーズ・バレー」実証実験の実施

(1) キックオフシンポジウム

陸前高田市 戸羽市長出席を得た開催が決定

本取り組みのキックオフを広く内外にアピールする

2014年12月14日(日) 場所: 陸前高田市庁舎大会議室

基調講演: 渡邊幸義氏(株式会社アイエスエフネット 代表取締役)

パネルディスカッション

111名参加(一般市民、施設関係者、支援学校、

障がい者本人・家族、関係行政機関(市、県、

国)、マスコミ)

市長・関係者の共通理解構築。

市としての取り組みを表明。

アイエスエフネットグループの気仙地域での取組

組方向性を表明。

参加者アンケート: 推進に強い賛同を得る

(賛同78%、どちらでもない2%、無回答20%)



岩手日報 2014年12月15日

(2) 実証実験

新事業所開所(B型+A型+移行支援)を念頭においた実証実験のあり

かたを関係者協議⇒結果: 早期立ち上げの可能性の高い「食」と「農」

分野での実験実施とすることで関係者合意(雇用の早期創出)

実証実験1～「農」分野 2015年1月26日(月)～28日(水)

協力: 株式会社あすファーム 松島

参加: 社会福祉法人愛育会 就労継続B型事業所 作業所さくら

・実農場での1次、及び、6次産業化関連業務の体験

実証実験2～「食」分野 2015年2月6日(金)～8日(日)

協力: 株式会社八木澤商店、株式会社アイエスエフネットライフ

参加: 社会福祉法人大洋会 就労継続B型事業所 青松館

社会福祉法人燦々会 就労継続B型事業所 あすなるホーム

・就労ビジネスマナー等研修

・八木澤商店実店舗(カフェ)における3次産業

(サービス)実務体験



得られた成果

陸前高田市の地域再生における就労困難者の雇用創出、及びそれに基づいた復興まちづくりについて

- (1)【森林】、【すまい】、【食と農】の3分野における計4テーマに関する課題について整理した。(→別紙2参照)
⇒【食と農】分野での早期立ち上げの可能性確認と関係者間での合意形成
- (2)就労困難者の就労に向けた地域の機運醸成がはかれた。(→別紙10参照)
⇒シンポジウム開催案内は市内全世帯配布、陸前高田市広報誌掲載、実施結果は地域有力紙に記事掲載
- (3)陸前高田市の施策に反映された。
⇒平成27年からの「第4期陸前高田市障がい者福祉計画」(案・平成27年3月策定予定)の重点施策として反映(A型事業所の開設等)
⇒平成27年重点施策の一環として、就労研修の実施(予定)
- (4)(1)(2)を踏まえて実証実験を行い、実証的经验を得、就労希望者側、企業・事業者側、施設側それぞれにおける今後の課題を把握した。(→別紙11～12参照)
⇒実験参加者(現:B型通所者)本人・家族の劇的な意識変化、就労への意欲の高まり、事業者・施設側での具体的課題発見を果たす。
⇒企業・事業者側で、障がいのA型・一般雇用が可能であることを実感・確認することができた。
- (5)気仙地域での業務切り出しによる障がい者就労の先駆事例を作った。(→別紙7参照)
⇒研究会メンバー企業においてテレワーク業務を実際に障がい者雇用で試行的に切り出しを検討
⇒テレビ放映(テレビ東京「カンブリア宮殿」)や震災4年目報道後の電話注文等の増加にも対応し障がい者雇用も促進(実施3月6日～)
- (6)市の都市計画も勘案した、具体的な事業所のロケーション検討も念頭においた基本的な構想の考え方・方向性をとりまとめた。

今後に向けた課題・活動の見通し

今年度の取組によって、気仙地域の地域資源、特に、食、農を活かし、コミュニティの強さや生活文化を資本に、就労困難者が働き暮らせる新しいコミュニティモデルの構築と実現が可能であることが確認できた。

課題としては、被災地に存在する多様な働きづらさへの対応。具体的には、障がい者に加えて高齢者、仮設引きこもり状態にある方々、女性、子育て中の親(特に母親)を含めた就労困難者への広がりを十分に確保すること。また、スピード感を持った展開が重要であることも認識された。
この成果を踏まえて平成27年度以降も以下に取り組み、先導的なモデルをさらに形にし、被災地初発の先導性を示す。

- 【1】陸前高田・気仙地域の中心となる複数の事業者(経営者)を巻きこみ、業務切り出しの実施によりA型・一般就労の実現に向けた取り組み(具体的な事業所の開設に向けた関係者間での検討)。
- 【2】介護、リハビリ、保育、女性の活躍する事業を掛け合わせた「複合型ユニバーサル就労」をめざす機能を検討する。
- 【3】陸前高田市との協力体制のもと、実地的な施設計画や収支計画を伴った事業化調査、及び、アイエスエフネットグループの協力を得た就労支援研修の実施の推進。
- 【4】立ち上がり早く早期に雇用創出を見込める「食」「農」分野の6次産業化を先行して就労の場確保(事業所開設)に向けた準備に取り組む。
- 【5】仕組み的な課題が確認された「森林」「すまい」分野については、業務を切り出せる仕組み整備に取り組む。

2.2 SB ネットワーク塾

ソーシャルビジネス・タウンの創生に向けて、多様なステークホルダーを巻き込み、事業創造することが出来る人材を育成する講座。「社会事業家 100 人インタビュー」、「課題先進国会議」として展開しました。

「社会事業家 100 人インタビュー」

回	開催日時	開催場所	ゲスト	参加人数
第 35 回	2014 年 11 月 25 日 (火)	山形市男女共同参画センター	野口比呂美氏((特)やまがた育児サークルランド 代表)	22 人
第 36 回	2015 年 1 月 8 日 (木)	ETIC.ソーシャルベンチャー・ハビタット	尾野寛明氏(有限会社エコカレッジ 代表取締役)	17 人
第 37 回	2015 年 2 月 2 日 (月)	ETIC.ソーシャルベンチャー・ハビタット	吉成信夫氏((特)岩手子ども環境研究所 理事長/森と風のがっこう校長)	7 人
第 38 回	2015 年 4 月 2 日 (木)	ETIC.ソーシャルベンチャー・ハビタット	竹内弓乃氏・熊仁美氏((特)ADDS 共同代表)	6 人
第 39 回	2015 年 5 月 15 日 (金)	岡山県ボランティア・NO 活動支援センター「ゆうあいセンター」	新田恭子氏((公社)セカンドハンド 設立者)	28 人

第 40 回	2015 年 5 月 22 日 (金)	SBN 事務局	森山奈美氏((株)御祓川 代表取締役)	23 人
特別企画	2015 年 5 月 31 日 (日)	(認特)トゥギャザー 会議室	中條桂氏(認定特定非営利活動法人トゥギャザー 理事長)	非公開
第 41 回	2015 年 7 月 13 日 (月)	SBN 事務局	堀 永乃氏(一般社団法人グローバル人財サポート浜松 代表理事)	9 人
第 42 回	2015 年 8 月 17 日 (月)	SBN 事務局	鈴木亨氏(特定非営利活動法人北海道グリーンファンド 理事長)	4 名

「課題先進国会議」

	開催日時	ゲスト	参加
第 5 回	2014 年 10 月 17 日(金)	上村雄彦氏(横浜市立大学 国際総合科学部 国際都市学系グローバル協力コース 教授)	19 人
第 6 回	2014 年 12 月 2 日(火)	関根健次氏(ユナイテッドピープル株式会社 代表取締役)	20 人
第 7 回	2015 年 2 月 13 日(金)	藻谷浩介氏(日本総合研究所 調査部 主席研究員、地域エコノミスト)	51 人

2.3 ソーシャルビジネス・ギャザリング

「SB ネットワーク塾」で育成した人材と、全国のソーシャルビジネス事業者が一堂に会する年次イベント。ステージプログラム、展示会、交流会などを行うものです。

今年度は、東北復興をテーマとし、経済産業省補助事業として被災地にて開催しました。

「東北復興ソーシャルビジネス・ギャザリング」

10 月から 11 月にかけて、岩手県陸前高田市、釜石市、福島県いわき市、南相馬市、宮城県名取市の 5 か所にて地域フォーラムを開催し、2015 年 3 月 15 日に仙台市にて全体フォーラムを開催しました。

【実施状況一覧】

日時	会場	タイトル	来場者数
2014年10月19日(日) 13:00～19:00	箱根山テラス (岩手県陸前高田市)	陸前高田復興ソーシャル ビジネス・ギャザリング	75 名
2014年10月30日(木) 13:00～18:00	いわき産業創造館 (福島県いわき市)	いわき復興ソーシャルビ ジネス・ギャザリング	52 名
2014 年 11 月 16 日(日) 12:00～15:00	ロクファームアタラタ (宮城県名取市)	仙南復興ソーシャルビ ジネス・ギャザリング	76 名
2014年11月22日(土) 13:00～18:00	釜石・大槌地域産業育成セ ンター(岩手県釜石市)	釜石復興ソーシャルビ ジネス・ギャザリング	95 名
2014年11月27日(木) 13:00～18:00	南相馬市民文化会館「ゆめ はっと」多目的ホール(福島 県南相馬市)	南相馬復興ソーシャルビ ジネス・ギャザリング	104 名
2015年3月15日(日) 10:00～18:00	夢メッセみやぎ 西館(宮城 県仙台市宮城野区)	東北復興ソーシャルビ ジネス・ギャザリング	512 名(うちステージプロ グラム聴講者 304 名、ブ ース出展 76 事業者)

【地域フォーラム】

開催地域(主催、共催)	開催日時(会場)	キーノートスピーチ 登壇者	パネルディスカッション等登壇者
宮城県名取市 (主催:SBN、共催:NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター、みやぎSBCB中間支援会議)	2014年11月16日(日) 12時～17時 (ロクファームアタラタ)	横石 知二氏 (株式会社いろどり 代表取締役)	[トークセッション] 風見正三氏(宮城大学事業構想学部 教授) 横石 知二氏(株式会社いろどり 代表取締役)
岩手県陸前高田市 (主催:SBN、共催:なつかしい未来創造株式会社)	2014年10月19日(日) ステージ、復興フェア: 13時～19時 (箱根山テラス)	畦地履正氏 (株式会社四万十ドラマ 代表取締役)	[パネルディスカッション] 菅野秀一郎氏(菅久菓子店 代表) 河野通洋氏(株式会社八木澤商店 代表取締役) 橋詰真司氏(有限会社橋勝商店 代表取締役社長) 町野弘明(一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 専務理事) * モデレーター
岩手県釜石市 (主催:SBN、共催:NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク)	2014年11月22日(土) ステージ:13時～18時 展示:11時～18時 (釜石・大槌地域産業育成センター)	高津玉枝氏(株式会社福島 代表取締役)	[パネルディスカッション] 伊藤聡氏(釜石市、三陸ひとつなぎ自然学校) 森田麻里氏(紫波町、ならいまちこまち代表) 八木健一郎(大船渡市、(有)三陸とれたて市場代表) 伊藤文子氏(東北クロッシェ村ニット製品作り手) 菊池新一(遠野市、NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク会長) * モデレーター
福島県いわき市 (主催:SBN、共催:NPO法人うつくしまNPOネットワーク)	2014年10月30日(木) 13時～18時 (いわき産業創造館)	市来広一郎氏 (atamista 代表理事)	[パネルディスカッション] 白石長利氏(ファーム・白石代表) 高橋正行氏(株式会社磐城高箸 代表取締役) 佐藤良治氏(生木葉ファーム 代表) 市来広一郎氏 佐藤直美氏(いわきリエゾンオフィス企業組合理事長) * モデレーター
福島県南相馬市 (主催:SBN、共催:NPO法人うつくしまNPOネットワーク)	2014年11月27日(木) 13時～18時 (南相馬市民文化会館)	河野通洋氏(株式会社八木澤商店 代表取締役)	[パネルディスカッション] 西みよ子氏(NPO法人あさがお理事長) 和田智行氏(株式会社エクスプレイン 代表取締役) 澤田竜一氏(株式会社ドリームゲート専務取締役) 丹治惣兵衛(福島県ソーシャルビジネス推進協議会会長・国立大学法人福島大学 地域創造支援センター特任教授) * モデレーター

【全体フォーラム】

〔実施概要〕

- ・ タイトル: 東北復興ソーシャルビジネス・ギャザリング ～地域から未来の東北・日本を生み出す～
- ・ 日時会場: 10:00～18:00 夢メッセみやぎ 西館
- ・ 主催: 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
- ・ 共催: 東北ソーシャルビジネス推進協議会
- ・ 後援: 経済産業省、復興庁、岩手県、宮城県、福島県、仙台市、日本政策金融公庫、河北新報社、仙台商工会議所
- ・ 協力: SBCB 中間支援会議、なつかしい未来創造株式会社、特定非営利活動法人うつくしま NPO ネットワーク、特定非営利活動法人せんだいみやぎ NPO センター、特定非営利活動法人遠野山・里・暮らしネットワーク

〔実施内容〕

＜ステージプログラム「SB トップランナーミーティング」＞

● 開会(13 時)

- ・開会メッセージ: 藤田和芳(一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 代表理事、株式会社大地を守る会代表取締役社長)
- ・主催者挨拶、趣旨説明: 町野弘明(ソーシャルビジネス・ネットワーク専務理事・事務局長、株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ代表取締役社長)

● 基調セッション(13 時 20 分)

- ・テーマ:「誰にも居場所と出番と信頼のある東北復興」
 - ・パネラー: 渡邊幸義(株式会社アイエスエフネット代表取締役、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク常任顧問)、河野通洋(株式会社八木澤商店代表取締役、なつかしい未来創造株式会社専務取締役)
 - ・モデレーター: 熊野英介(一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク副代表理事、アマタホールディングス株式会社代表取締役、公益財団法人信頼資本財団理事長)
- (休憩)

テーマセッション 1(14 時 30 分)

● テーマセッション①

- ・テーマ:「持続可能なまちづくりを実現するソーシャルビジネス」
- ・パネラー: 横石知二(株式会社いろどり代表取締役社長、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク理事)、松場登美(株式会社石見銀山生活文化研究所代表取締役所長、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク評議員)
- ・モデレーター: 川村健一(広島経済大学経済学部ビジネス情報学科教授、NPO 法人サステナブルコミュニティ研究所代表理事、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワークアドバイザー)

● テーマセッション②

- ・テーマ:「多様なセクターとの連携によるソーシャルビジネス」
- ・パネラー: 日野公三(株式会社アットマーク・ラーニング代表取締役、明蓬館高等学校理事長兼校長、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク理事)、石田達也(NPO 法人宮崎文化本舗代表理事、九州ソーシャルビジネス促進協議会代表理事、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク評議員)
- ・モデレーター: 風見正三(東北ソーシャルビジネス推進協議会会長、宮城大学事業構想学部教授、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワークアドバイザー)

● テーマセッション③

- ・テーマ:「東北復興ソーシャルビジネス最前線」
- ・モデレーター: 佐々木秀之(東北ソーシャルビジネス推進協議会事務局長、NPO 法人せんたい・み

テーマセッション 2(16 時 05 分)

● テーマセッション④

・テーマ:「地域リソースを活かしたソーシャルビジネス」

・パネラー: 池内計司 (IKEUCHI ORGANIC 株式会社代表取締役、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク理事)、加納尚明 (一般社団法人プロジェクトデザインセンター代表理事、NPO 法人札幌チャレンジド理事長)

・モデレーター: 濱砂清 (一般社団法人 SINKa 代表理事、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワークフェロー)

● テーマセッション⑤

・テーマ:「ソーシャルビジネスが拓く復興まちづくりのかたち」

・パネラー: 菊池新一 (NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワーク会長、岩手ソーシャルビジネス協議会事務局長、東北ソーシャルビジネス推進協議会副会長)、河野通洋、成澤直記 (NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク、福島県ソーシャルビジネス推進協議会事務局)、佐々木秀之

・モデレーター: 町野弘明

● ソーシャルビジネス宣言、閉会(17 時 25 分) 風見正三



2.4 ソーシャルビジネス・アワード

ソーシャルビジネスの推進と普及を目指し、優れた取り組みを表彰するもの。

今年度は、経済産業省補助事業として展開する、上記のソーシャルビジネス・ギャザリングと合わせて、東北復興支援に寄与するソーシャルビジネスを対象として展開しました。

またアワードの実施に合わせて、東北復興ソーシャルビジネス・アワードの受賞者、候補者を中心に、60 程度の事業者を選定し、「東北復興ソーシャルビジネス・ケースブック」として取りまとめ、全体フォーラム来場者に配布しました。

〔ソーシャルビジネス・アワード実施体制〕

- ・ 主催：一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
- ・ 協力：東北ソーシャルビジネス推進協議会
- ・ 協賛：損保ジャパン日本興亜株式会社、株式会社大地を守る会、株式会社カスタネット
- ・

〔ソーシャルビジネス・アワード審査委員〕

- ・ (委員長) 藤田和芳 氏 (株式会社大地を守る会代表取締役社長)
- ・ 池内計司氏 (IKEUCHI ORGANIC 株式会社社長)
- ・ 風見正三氏 (宮城大学事業構想学部教授)
- ・ 関正雄氏 (損保ジャパン日本興亜株式会社 CSR 部上席顧問)

〔ソーシャルビジネス・アワード受賞者〕

- ・ ソーシャルビジネス・リーダー賞：株式会社アイエスエフネット
- ・ ソーシャル・アントレプレナー賞：特定非営利活動法人東北開墾
- ・ ソーシャル・プロデューサー賞：株式会社元気アップつちゆ
- ・ ソーシャル・コミュニティ賞：長洞元気村
- ・ ソーシャル・ターン賞：一般社団法人つむぎや
- ・ 特別賞：特定非営利活動法人ふうどばんく東北 AGAIN





〔東北復興ソーシャルビジネス・ケースブック〕

2.5 SB コミュニティ

ソーシャルビジネス・タウン創生のための応援団的な仲間づくりの場。「社会的課題分野」、「手法」、「地域(場所)」など、参加者の興味領域別のコミュニティ活動を、今期は「働き方委員会(障がい者雇用やダイバーシティという「社会課題分野」を対象としたコミュニティ)」として展開しました。

【「働き方委員会」開催概要】

	開催日	検討内容
第 15 回	2014 年 10 月 1 日(水)	第3回ゼミナールの展開について
第 16 回	2014 年 11 月 13 日(木)	第3回ゼミナールの振り返り、今後について
第 17 回	2014 年 12 月 10 日(水)	今後について
第 18 回	2015 年 1 月 20 日(火)	
第 19 回	2015 年 2 月 9 日(月)	視察ツアーの実施について
第 20 回	2015 年 2 月 26 日(木)	アイエスエフネットライフ静岡へのスタディツアーの内容について
第 21 回	2015 年 3 月 25 日(水)	アイエスエフネットライフ静岡へのスタディツアーの実施
第 22 回	2015 年 4 月 16 日(木)	生き方・働き方講座のプロジェクト化について
第 23 回	2015 年 5 月 14 日(木)	事務局と協力関係にある「ピアサポートネット渋谷」と協働する形で、渋谷区をフィールドとする「ユニバーサル就労モデル」構築に関する検討
第 24 回	2015 年 6 月 9 日(火)	
第 25 回	2015 年 6 月 23 日(火)	
第 26 回	2015 年 7 月 7 日(火)	
第 27 回	2015 年 8 月 4 日(火)	
第 28 回	2015 年 9 月 1 日(火)	株式会社 K2 インターナショナルジャパン視察
第 29 回	2015 年 9 月 25 日(金)	一般社団法人 インクルージョンネットかながわ視察

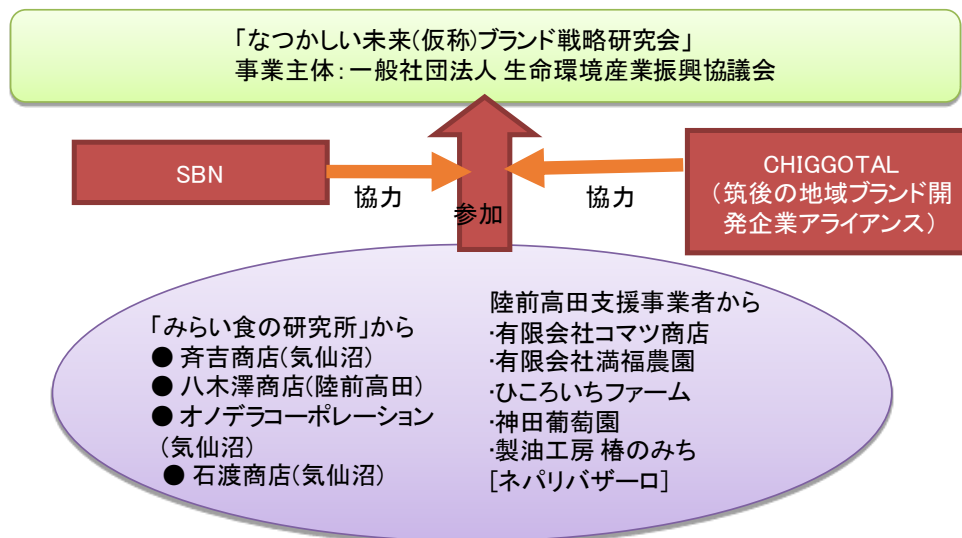
(主な開催時間: 19:30~21:00、主な開催場所: SBN 会議室)

2.6 SB プラットフォーム

ソーシャルビジネス・タウン創生のための推進組織。東京や全国の SB 事業者・関係者と地域のプロデューサー・チームが協働する産官学民のセクターを超えた、クラスター推進を行う組織をサポートする形での事業展開を図りました。

具体的には、岩手県陸前高田市にある一般社団法人 生命環境産業振興協議会へ協力する形で、「平成27年度地域経済産業活性化対策費補助金(工業品等に係るビジネスマッチング・商品開発支援事業)〔平成 27 年 6 月 3 日～平成 28 年 3 月 31 日〕東北経済産業局」、および「平成26年度補正予算『地域イノベーション協創プログラム事業(地域資源活用ネットワーク形成支援事業)』〔平成 27 年 6 月 23 日～平成 28 年 1 月 31 日〕経済産業省」の交付を受け、前者は地域ブランドのアソート商品開発を、後者は旅行客ひいては継続来訪、二拠点居住、移住者を増やしていくための地域ストーリー開発を行っています。

【「平成27年度地域経済産業活性化対策費補助金(工業品等に係るビジネスマッチング・商品開発支援事業)」事業概要】

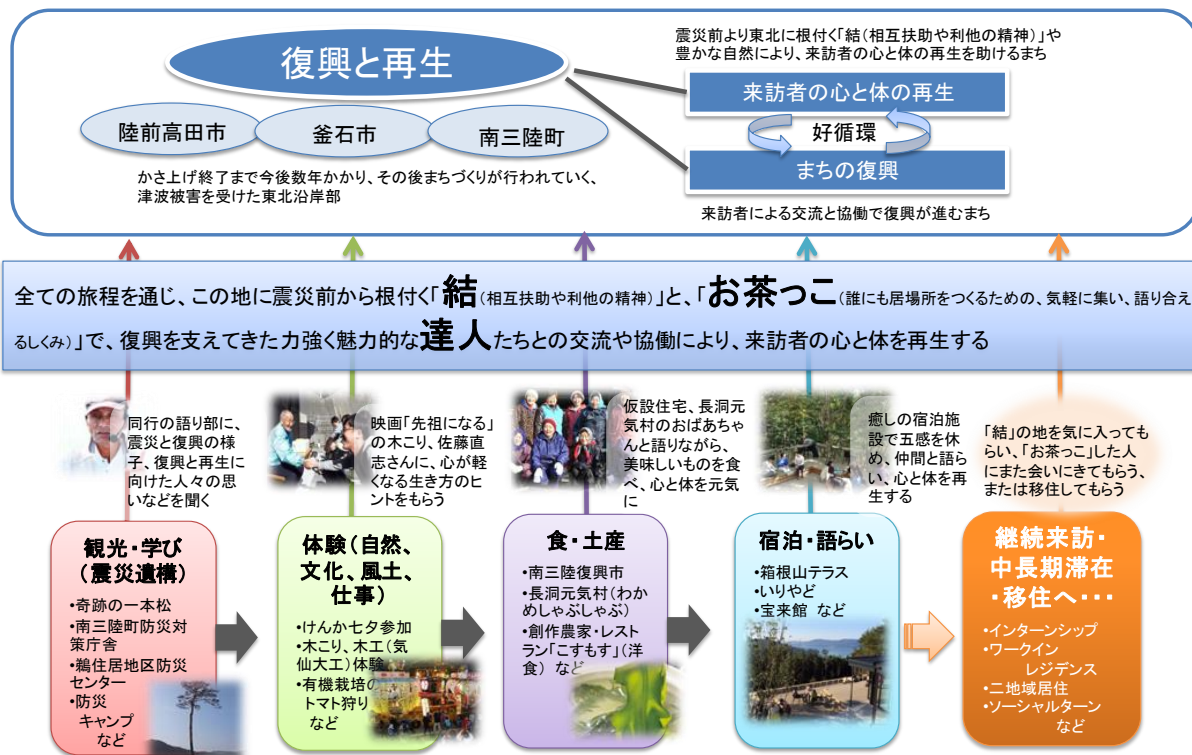


「『結』のツアーが築く、“ツーリスト・ルネサンス、東北ルネサンス”事業

岩手県陸前高田市、釜石市、宮城県南三陸町

一般社団法人 生命環境産業振興協議会

協力：SBN



3 組織運営報告

3.1 入会促進

法人会員については、理事等からの紹介を通じた積極的なアプローチを行う計画を立てていましたが、これまで結果が実らなかったため、理事の方々へのより一層の協力を求めています。一方で、顧問や評議員、フェローなどとして参画いただいている組織についても会費の支払いをお願いしましたが、会員増加には至りませんでした。また個人会員の入会促進のために、「社会事業家 100 人インタビュー」や「課題先進国会議」、「ソーシャルビジネス・カフェ」など、隔月1回程度の頻度でイベントを開催していましたが、会員数増加につなげることができませんでした。

会員種別	数	名称(敬称略、順不同)
法人会員 A	6 社 (昨年度 11 社)	アマタホールディングス、サラヤ、大地を守る会、資生堂、損保ジャパン日本興亜、アメリカン・エクスプレス
法人会員 B	14 社 (昨年度 22 社)	ソーシャルファイナンス支援センター、IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所)、大阪 NPO センター、中村ブレイス、いろどり、カスタネット、大川印刷、フェアトレードカンパニー、ETIC、北海道グリーンファンド、キャリア・mam、アットマーク・ラーニング、ソルト、UZUZ
個人会員	19 人口 (昨年度 25 人口)	
学生会員	0 人口 (昨年度 1 人口)	

3.2 地域連携

「東北復興ソーシャルビジネス・ギャザリング」などの全国イベントを通じて、地域協議会との連携を高め、全国レベルでのソーシャルビジネスの拡大・推進に努めてきました。

3.3 広報・PR

メールマガジンやフェイスブック等での活発な情報発信を行ってきました。メールマガジン読者は 2,990 人(昨年度 3,050 人)、フェイスブック登録者は 2,010 人(昨年度 1,735 人)となっています。(2015 年 9 月末)

社員のみなさまにご協力いただいていた連続コラムは好評を博し、第 35 回で終了しました。

連載コラム終了後、2015 年 7 月前期号より、加藤喜久理事(株)レスポンスアビリティー GM))にご協力いただき、「ソーシャルビジネスとクラウドファンディング」をテーマとした 4 回連載コラムを掲載しました。

また 9 月後期号より、新連載「ソーシャルビジネスがシフトする新しい生き方・働き方」の掲載を開始しました。

(連続コラム「ポスト 311 の日本とソーシャルビジネス」執筆者)

回	執筆者
10 月前期号	渡辺一馬 評議員(一般社団法人ワカツク代表理事、株式会社デュナミス代表取締役、NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター理事)
10 月後期号	染谷ゆみ 評議員(株式会社ユーズ代表取締役TOKYO油田 プロジェクトリーダー)
11 月前期号	上田敬 評議員(日本経済新聞社編成局デジタル編集本部デジタル報道部コンテンツ企画委員)
11 月後期号	杉浦俊明 評議員(森永製菓株式会社 コーポレートコミュニケーション部長)
12 月前期号	高津玉枝 評議員(株式会社福市/LOVE&SENSE 代表取締役)
12 月後期号	奈須憲一郎 評議員(特定非営利活動法人森の生活 ファウンダー)
1 月後期号	堤香苗 評議員(株式会社キャリア・mam代表取締役)

(連続コラム「ソーシャルビジネスとクラウドファンディング」)

回	テーマ
7 月前期号	第一回: ソーシャルビジネスとファイナンス
7 月後期号	第二回: クラウドファンディングの種類と実例(前半)
8 月前期号	第三回: クラウドファンディングの種類と実例(後半)
8 月後期号	第四回: ソーシャルビジネスへの資金調達手段としてのクラウドファンディング

(連続コラム「ソーシャルビジネスがシフトする新しい生き方・働き方」)

回	テーマ
9 月後期号 (第 1 回)	町野弘明 専務理事(事務局長)(株式会社ソシオ エンジン・アソシエイツ 代表取締役社長)

また今年度は、韓国や中国からの取材が相次ぎ、藤田代表理事、町野事務局長などで対応しました。

取材日	対象者、内容など
2015 年 4 月 2 日(木)	韓国、希望製作所 CHOI,Hojin 氏、Ahn,SinSook 氏 ・日本におけるソーシャルビジネスに関わる法制度について ・事業者団体としての SBN の存在意義、目標や役割について
2015 年 5 月 27 日(水)	韓国、社団法人共同体デザイン研究所 田忠勲氏、Regional Revitalization LAB Martello の代表 Hoon, Jeon 氏 ・SBN の経緯や活動について(YEONG-NAM 日報に掲載)
2015 年 7 月 8 日(水)	中国 Leping Social Entrepreneur Foundation Jaff Shen 氏、Xin Hu 氏、環球協力社 Fan Li 氏 ・SBN のミッションやこれまでの活動内容について ・日本におけるソーシャルビジネス事業者のトップランナーについて

3.4 定例会議

計画に基づいた定例会議の開催を進めてきました。

(開催日程)

種別	開催日時 (開催場所)	議題	参加者(定足数)
経営会議 (第 15 回)	2014 年 10 月 18 日(土) 10:00~15:00(事務局会議室)	活動報告、中期的な活動方針、活動計画(事業計画、経営計画、組織計画)、人事	藤田和芳代表理事、熊野英介副代表理事、町野弘明専務理事、海津歩常務理事
理事会 (第 11 回)	2015 年 1 月 22 日(木) 10:00~10:15(株式会社国際社会経済研究所会議室)	第 1 号議案: 役付き役員人事について	17 名
社員総会	2015 年 1 月 22 日(木) 10:15~12:00(株式会社国際社会経済研究所会議室)	第 1 号議案: 役員人事について 第 2 号議案: 平成 25 年度事業活動報告 第 3 号議案: 平成 25 年度事業収支報告 第 4 号議案: 平成 26 年度事業活動計画 第 5 号議案: 平成 26 年度事業収支計画	54 名
経営会議 (第 16 回)	2015 年 8 月 24 日(月) 18:30~21:30(事務局会議室)	今年度活動中間報告、来年度の事業推進について	藤田和芳代表理事、熊野英介副代表理事、町野弘明専務理事、植木力常務理事、海津歩常務理事